

下人や動物からの天然試料についての本法の有 用性につき検討中である。

〔川崎医療福祉学会ニュース〕

川崎医療福祉学会 第4回 研究集会プログラム

平成5年6月2日

1. 排尿の生理

臨床栄養学科 岡田 博匡

2. 運動と免疫

健康体育学科 長尾 憲樹

3. 前注意的処理によって駆動されるサッケード — 受動的かつ能動的な視空間定位 —

旭川児童院 療育課 安達 潤

排尿の生理

排尿反射をひき起こした時の骨盤神経の遠心性活動、外尿道括約筋の活動および橋排尿中枢の単位活動を追求した。外尿道括約筋は排尿前の貯尿期に仙髄レベルを介して反射的に収縮するが、排尿時には橋排尿中枢より下行する衝撃

によって抑制されて尿道が弛緩する。他方、この下行性衝撃は骨盤神経を通して膀胱を収縮する。骨盤神経にみられる約2 Hzの衝撃群と類似の活動型式を示すニューロンが橋背外側被蓋核に存在する。

運動と免疫

Toluene-Diisocyanate (TDI) の免疫への作用を利用して、発育期マウスの水泳運動に対する免疫応答を検討した。その結果水泳運動は、特異的遅延型過敏反応を促進するが、TDI 特異的IgG 抗体価について影響がみられなかったこと

を示した。一方、健康成人80名の1ヶ月間のトレーニング前後での血中IgE値より、20% 基準値より高い者の存在が明らかとなった。運動と免疫の関係は、不明な点が多く、今後の研究成果が待たれる。

前注意的処理によって駆動されるサッケード

— 受動的かつ能動的な視空間定位 —

左右視野にターゲットと非ターゲットを同時呈示してターゲットを選択注視する実験パラダイムを利用し、人のサッケードが前注意過程という視覚情報処理過程に駆動されることを明らかにした。そして人はこの前注意過程を調整し、

旭川児童院 療育課 安達 潤

特定の刺激特徴に対して半能動半受動的な高効率の視空間定位を行い得ることを示した。さらに半能動半受動的な視空間定位が環境への適応に果たす役割を仮説的に述べ、障害児教育との関連を示唆した。